

## ◆ 今週のコメント

- ・ **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**の報告が2例(60歳代男性及び90歳代女性)(第22週追加報告分含む)ありました。本年の累積報告数は11例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が2例(10歳代女性及び20歳代女性)(第22週追加報告分)ありました。いずれも、症状は梅毒性バラ疹等、感染原因は性的接触(異性間)です。本年の累積報告数は28例となりました。  
梅毒は早期には薬物治療で完治できますが、検査や治療が遅れたり、治療せずに放置すると、脳や心臓に重い合併症を引き起こす危険があります。感染予防のために、性行為時にはコンドーム等を適切に使用しましょう。また、性器や口腔周囲に異変を感じたら、性行為を控え、速やかに医療機関に相談し、早期発見・早期治療することが重要です。
- ・ **感染性胃腸炎**の定点当たり報告数は1.05(45例)となり、前週の1.07(46例)とほぼ同じでした。現在のところは流行と呼べる状態ではありません。しかしながら、梅雨に入り食中毒のシーズンを迎えています。手洗いやうがいの励行、食品の十分な加熱、調理器具の消毒など予防に努めましょう。
- ・ **突発性発しん**の定点あたり報告数は0.58(25例)でした。4週前の0.16(7例)から、3週前0.19(8例)、2週前0.35(15例)、前週0.51(22例)と4週続けて増加し、前週及び今週は過去5年平均値を上回っています。全国では、5年平均を下回っているものの、京都市同様に4週続けて増加しています。現在の報告数では流行とは言えませんが、増加傾向にあることから、発生動向に注意が必要です。  
突発性発しんは乳幼児の代表的な熱性発疹性のウイルス性疾患で、1歳までに9割程度が罹患します。原因病原体はヒトヘルペスウイルス6(HHV-6)あるいは7(HHV-7)で、原因ウイルスが2種であることから、2回かかる場合もあります。主な症状は急な発熱と発疹で、通常3～4日で自然治癒します。特異的な治療はありませんが、症状によっては対症療法が必要な場合もありますので、発熱が続くときや乳幼児の元気がないときは、受診して診察を受けましょう。

## ◆ 今週のトピックス: <ダニ媒介感染症>

ダニ媒介感染症とは、病原体を保有するダニにかまれることによって起こる病気のことです。病原体の種類には細菌とウイルスがあります。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 8例(肺結核 3例, その他結核 4例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 2例  
【1月以降の累積報告数 106例(肺結核 53例, その他結核 19例, 潜在性結核感染者 34例)うち喀痰塗抹陽性 23例】
- ・ 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 11例】
- ・ 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 28例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

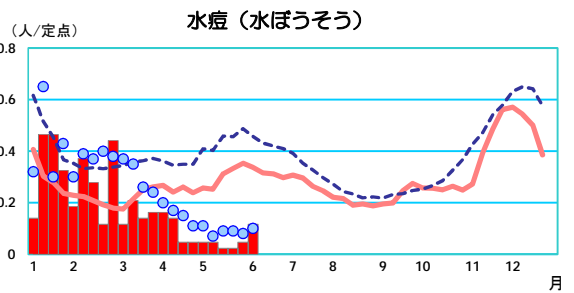
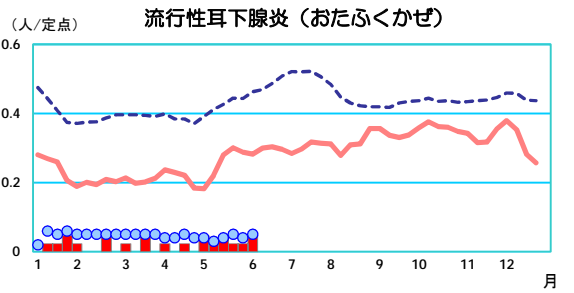
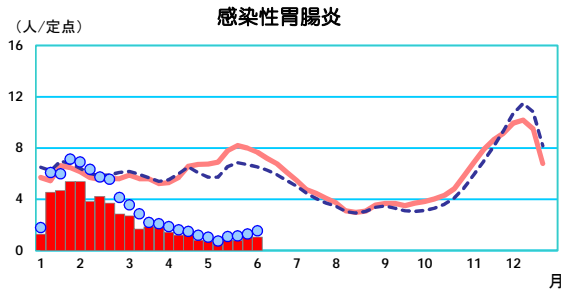
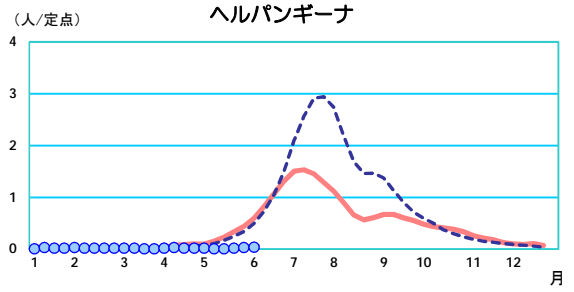
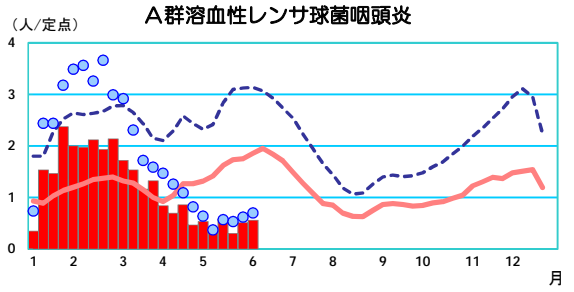
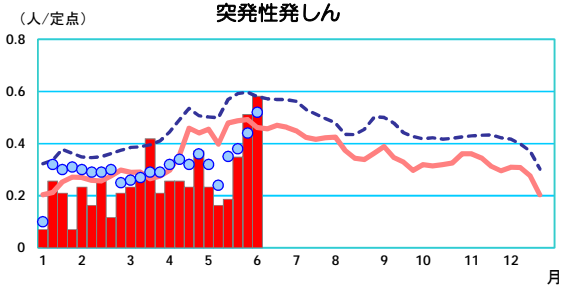
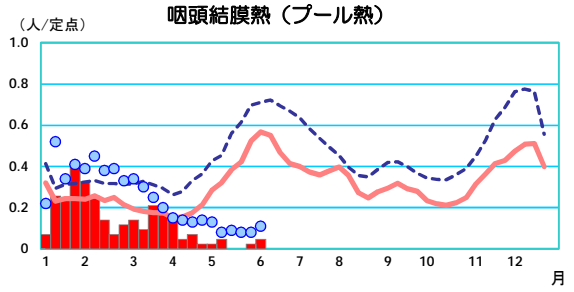
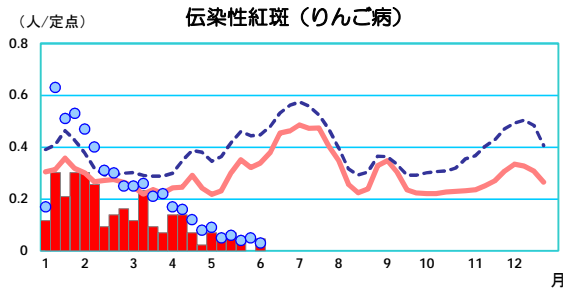
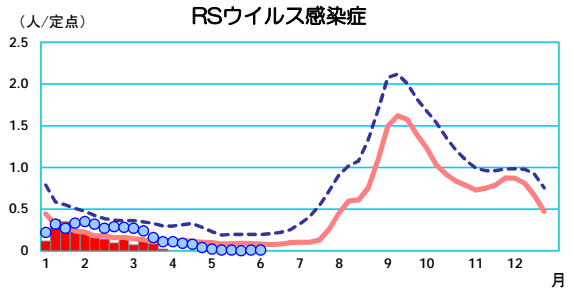
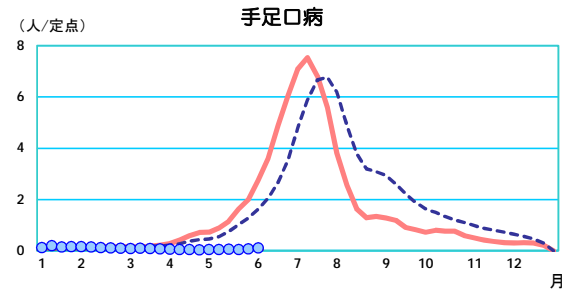
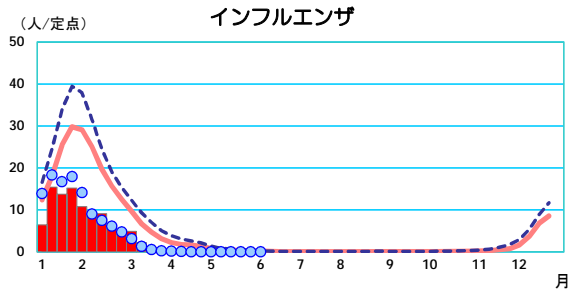
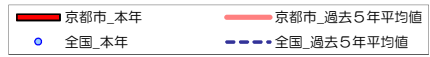
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.05	45
	② 突発性発しん	0.58	25
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.56	24
	④ 手足口病	0.14	6
	⑤ 水痘	0.12	5
眼科	流行性角結膜炎	0.00	0

## 【次ページ以降の主な内容】

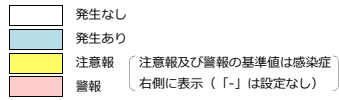
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <ダニ媒介感染症>  
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2020年6月10日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。  
\* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

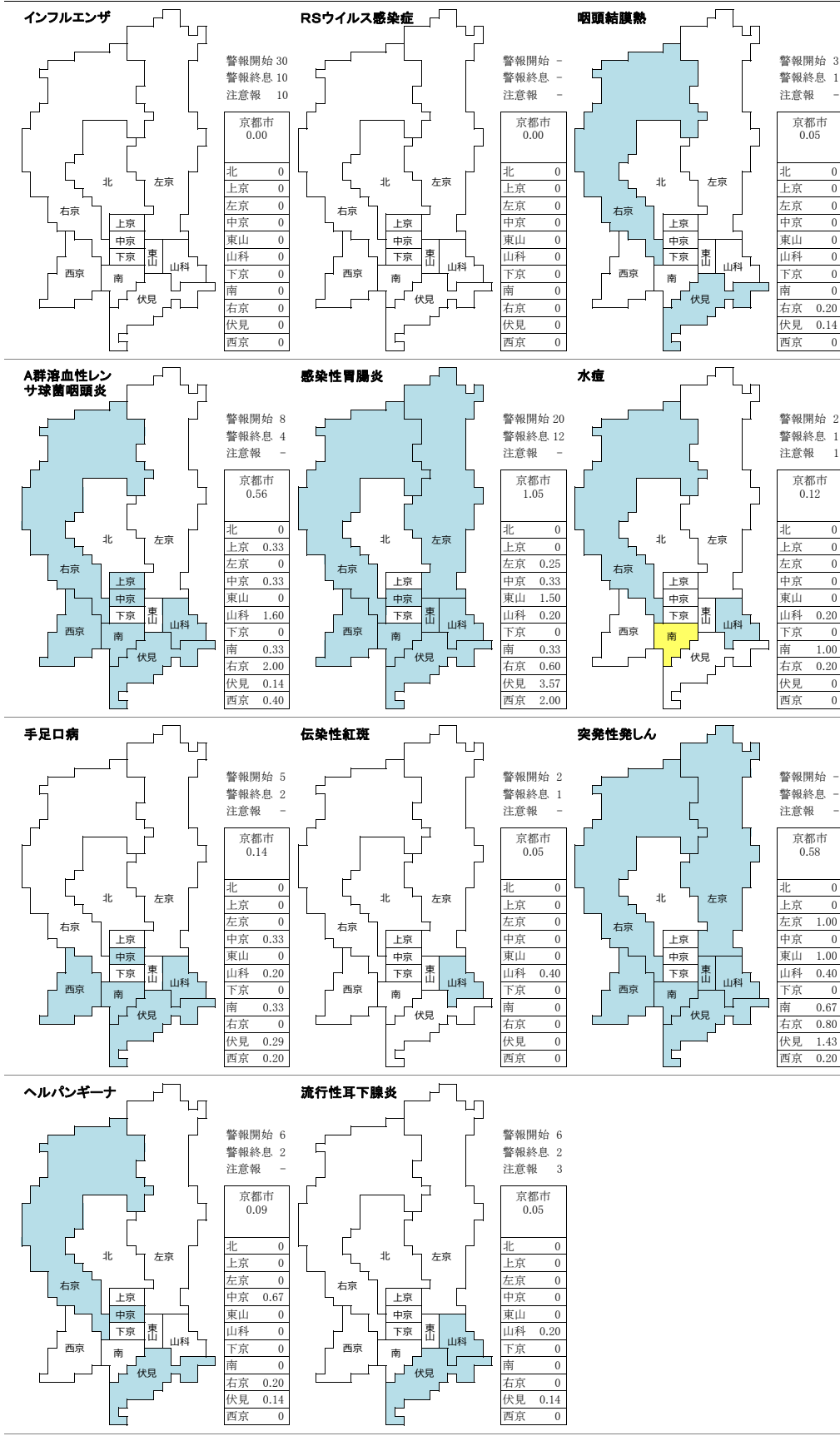
# インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2020年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2020年 第23週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。  
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。」



## 第23週(6月1日～6月7日) トピックス: <ダニ媒介感染症>

ダニ媒介感染症とは、病原体を保有するダニにかまれることによって起こる病気のことです。病原体の種類には細菌とウイルスがあります。

細菌\*が原因の感染症には、日本紅斑熱、Q熱(きゅーねつ)、つつが虫病、ライム病、野兔病(やとびょう)などがあり、ウイルスが原因の感染症には重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎などがあります。

\*病原体はリケッチア、スピロヘータと分類される場合もあります。リケッチアもスピロヘータも細菌の一種です。

京都市では、2011年以降において、日本紅斑熱が2011年(1例)、2015年(1例)、2017年(1例)、2019年(3例)、2020年(1例)、ライム病が2012年に1例及びSFTSが2016年に1例報告がありました。

全国の発生状況を2011年以降(SFTSについては2013年以降)で見ると、Q熱、ダニ媒介脳炎、野兔病及びライム病はほとんど報告がないか、もしくは少数である一方で、SFTS、つつが虫病及び日本紅斑熱の報告が比較的多くなっています。これらの感染症の発生動向を週別累計報告数で見ると、日本紅斑熱とSFTSの報告数は5月から11月に多く、つつが虫病は10月中旬から12月にかけて急増する傾向があります(図1)。

また、SFTSの報告数は、西日本地域に集中しています(図2)。ダニがウイルスを獲得する経路は、成ダニから幼ダニへの経卵伝播経路とマダニが感染動物を吸血してウイルスを獲得する水平伝播経路があり、野生動物や家畜・ペットが保有宿主となっています。また、SFTSウイルスは、動物に対して不顕性感染となります。

マダニやツツガムシなど、ダニの種類によって持っている病原体は異なりますが、病気にならないための予防策はダニにかまれないようにすることです。これからの季節はハイキングや山菜採りなどで、ダニが多く生息する野山や藪などに近づく機会が増えます。予防対策には大きく分けて二つあり、一つは肌を露出しない服装をすること、もう一つは忌避剤(虫よけ)を使用することです。

小児は自分自身で感染症を予防するという意識が少なく、ハイリスクの場所や服装に注意が及びにくいので、大人からの助言や服装をチェックすることで感染症から身を守る意識付けをしましょう。また、虫よけ剤は使用上の注意をよく読んで使いましょう。

野山で活動した後は体調の変化に注意し、発熱等の症状があれば医療機関を受診して下さい。皮膚に付着したダニを見つけた時は無理に引き抜こうとせず、皮膚科などで除去してもらいましょう。

京都市衛生環境研究所では、マダニに関する情報を御紹介していますので、ぜひ御覧ください。

【京都市情報館】京都市衛生環境研究所にゅーす(平成29年度 第1号) マダニにご注意!

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/29-1.pdf>

図1 全国の週別報告数の累計(2011年～2020年第23週)

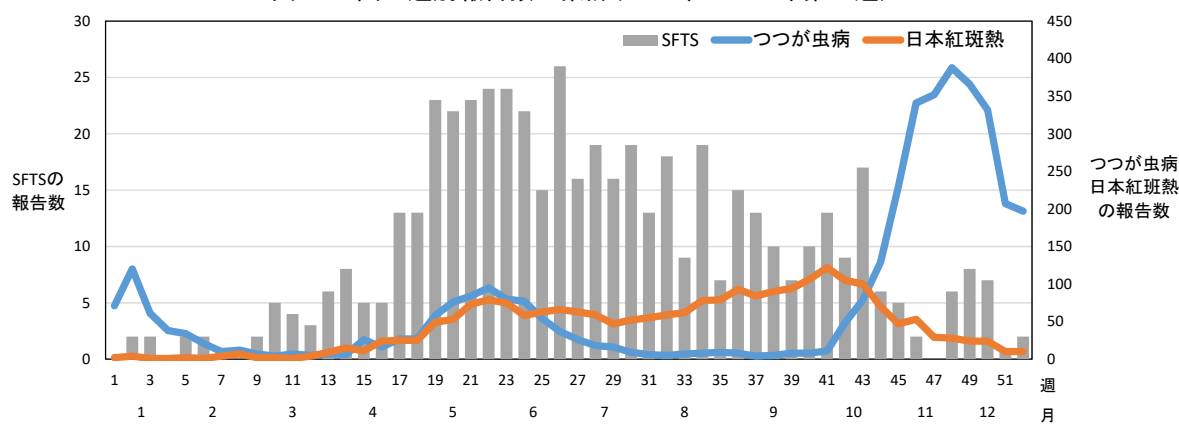


図2 SFTSの2011年～2020年(第23週)間の報告数の合計



T3201

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第23週

疾病,行政区別報告数

2020年6月1日～2020年6月7日

データ入手日:2020年6月10日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	1	1	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	8	1	1	1	2	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	1	1	3	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	1	10	3	1	-	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	1	1	25	-	2	-	10	1	1	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	2	10	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	2	24	45	5	6	2	25	4	2	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	0.25	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	0.33	0.33	-	0.33	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	1.50	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	1.60	0.20	0.20	0.20	0.40	0.40	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	0.33	0.33	1.00	0.33	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	0.20	2.00	0.60	0.20	-	-	0.80	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	0.14	0.14	3.57	-	0.29	-	1.43	0.14	0.14	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	0.40	2.00	-	0.20	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	0.05	0.56	1.05	0.12	0.14	0.05	0.58	0.09	0.05	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第23週

年齢階級, 疾病別報告数

2020年6月1日～2020年6月7日

データ入手日:2020年6月10日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上							
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		24	-	1	5	-	2	2	3	2	1	-	1	1	3	3							
感染性胃腸炎		45	1	10	10	4	-	3	2	1	-	2	1	6	1	4							
水痘		5	-	-	-	-	-	2	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		6	-	1	2	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		25	-	9	15	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		4	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.05	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.56	-	0.02	0.12	-	0.05	0.05	0.07	0.05	0.02	-	0.02	0.02	0.07	0.07						
感染性胃腸炎		1.05	0.02	0.23	0.23	0.09	-	0.07	0.05	0.02	-	0.05	0.02	0.14	0.02	0.09						
水痘		0.12	-	-	-	-	-	0.05	0.05	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.14	-	0.02	0.05	-	0.02	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.05	-	-	-	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.58	-	0.21	0.35	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.09	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.05	-	-	-	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第23週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2020年6月10日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	1	-	-	-	1	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	1	2	-	-	1	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	23	17	25	13	22	24
感染性胃腸炎	30	25	34	33	46	45
水痘	2	2	1	1	2	5
手足口病	1	4	2	5	5	6
伝染性紅斑	3	2	3	2	-	2
突発性発しん	10	7	8	15	22	25
ヘルパンギーナ	-	-	-	1	1	4
流行性耳下腺炎	2	1	2	1	1	2
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	1	1	3	-
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	74	60	76	72	104	115

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	0.01	-	-	-	0.01	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	0.02	0.05	-	-	0.02	0.05
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.53	0.40	0.58	0.30	0.51	0.56
感染性胃腸炎	0.70	0.58	0.79	0.77	1.07	1.05
水痘	0.05	0.05	0.02	0.02	0.05	0.12
手足口病	0.02	0.09	0.05	0.12	0.12	0.14
伝染性紅斑	0.07	0.05	0.07	0.05	-	0.05
突発性発しん	0.23	0.16	0.19	0.35	0.51	0.58
ヘルパンギーナ	-	-	-	0.02	0.02	0.09
流行性耳下腺炎	0.05	0.02	0.05	0.02	0.02	0.05
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	-	0.10	0.10	0.30	-
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	1.79	1.40	1.84	1.75	2.64	2.67

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。